

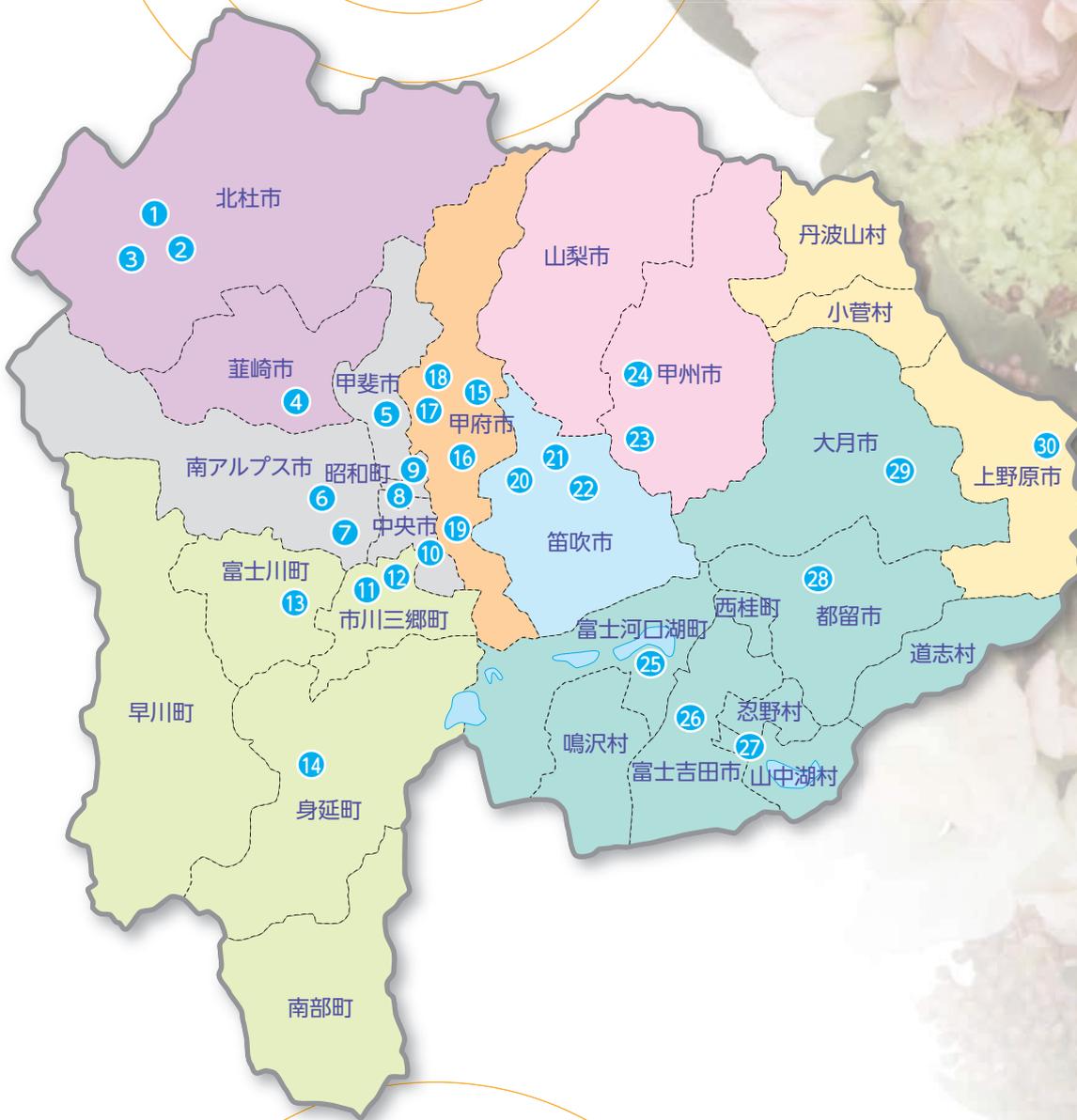
YAMANASHI

2015.1

Vol.36

山梨県老人保健施設協議会広報誌

ろれけん



昨年2月の豪雪を振り返って

平成26年2月14日から15日未明にかけて降り続いた観測史上最大の積雪

2月14日からの大雪は、1週間前の降雪とあいまって住民生活に大きな影響を及ぼしました。

当施設においては、腎臓や肝臓、心臓等に持病のある入所者様もおりましたので、都留市立病院併設という利点を活かし、体調の変化など、もしもの時に備えて、病院側と協議を行ない体制を整えておりましたが、幸いにして心身ともに大きく体調を崩されることなく、乗り切ることが出来ました。



担架救出訓練

あたり一面の銀世界、民家の屋根とひさしが区別できないほどの風景、入所者様からは驚きと不安、更にこの状況にあきれて「苦笑」までしてしまう複雑な表情がうかがえました。

当施設では、最初に食料の不足が心配されましたが、管理栄養士による市立病院と連携した給食の提供や地元の納入業者からの協力が講じて随時補充することができました。

2月15日には、病院・老健の職員が連携して人力による雪かきを行い、通路の確保、駐車場の確保などの復旧作業に全力で取り組みました。また、交通マヒのため通勤困難者がでる結果となり、職員の人員の割り振りには大変苦慮しましたが、入所者様の不安解消に懸命に当たった職員の献身的な対応は大いに評価できるものでありました。

なお、デイサービスは道路状況等を勘案して、3日間中止を余儀なくされてしまい、この間利用者様やご家族に大変ご不便をおかけしてしまいました。



エレベーター
救出訓練

老健「つる」での防災訓練

年2回都留市立病院や消防本部と合同で避難訓練を中心に実施していますが、今回の豪雪を踏まえて、このような自然災害の猛威から施設としての機能を保全するためには、自助として利用者様の家族や職員、共助としてボランティアや周辺地域の住民、そして市の公助とも密接に連携した訓練を実施してまいりたいと考えております。



消火訓練

ノイエス

開設20周年記念式典開催される



介護老人保健施設ノイエス開設20周年記念式典が、平成26年6月14日(土)、アピオ甲府「玉宝の間」で開催しました。開設以来、当施設の運営に大きく貢献された方々を中心に、約80名の皆様をお迎えして、20年の節目にふさわしい式典となりました。理事長より当施設開設の経緯、職員への期待など、多岐にわたりお話をいただきました。

来賓を代表して、昭和町長・角野幹男様より祝辞をいただきました。

ノイエスなど高齢者福祉施設が、今後ますます地域社会に必要な施設であること、また、その責任の重大さを感じました。これからの20年に向けて、更に絆を深くした式典でした。

第25回全国介護老人保健施設大会参加

10月15日から17日迄岩手県盛岡にて開催され、当施設より2題の事例発表をしました。岩手県は、震災から3年経過していますが、まだまだ復興途上で有りました。その中で、今大会をサポートされている方々の笑顔は、とても輝いていました。

他施設の事例を聴き、当施設でも実践できそうな事があるのではと話し合い、今後もより良いサービスが提供できる様努力していきたいと思えます。



第17回山梨県介護老人保健施設大会が11月12日、ベルクラシック甲府で開催されました。冒頭、横山宏会長から、刻々と迫りくる「少子多死時代」に対応し、老健施設をはじめ地域の医療・介護・リハビリ施設などが、今まで以上に職種間、諸機関相互に緊密な連携を取り合いながら、早急に地域包括ケアシステムを構築する必要がある。その中で、老健施設が地域包括ケアシステムの拠点としてその真価を発揮し、入所者の安全、安心を図り、地域の信頼を得るためには、各職種の職員増と健全経営の裏付けが必要であり、来年の報酬改定にあたっては、これらの点を国に強く求めていくとともに、この難局を乗り切るために、老健施設の一層強固な連携が必要になってくるとの挨拶がありました。



基調講演では、公益社団法人全国老人保健施設協会理事で老人保健施設「創生園」の高椋清理事長が「老健施設の中期ビジョンと現場ケア」と題して、老健施設が中間施設として生まれた経緯や果たしている役割、現場ケアのポイントについて講演をいただきました。

午後からは、大会のもう一つの目玉である「演題発表」が2会場で行われ、現場の職員が工夫を重ねて取り組んだ27演題が発表されました。その結果、次ページにあります4演題が優秀演題に選ばれました。

基調講演

老健施設の中期ビジョンと現場ケア

講演に先立ち、高椋清理事長から平成27年の介護報酬改定にあたり、財務省は「介護報酬財源の6%カット」の方針を打ち出すなど大変厳しい状況にあり、全国老人保健施設協会の「介護従事者の生活と人生を守り、利用者へのサービスの質を確保するための署名活動」が大きな輪となるよう、参加者に対し協力要請がありました。

講演では、まず老健施設の根幹理論としての理念・役割や老健施設と介護保険制度の関係などについて、昔ばなしの「もも太郎」に登場する「おじいさん」「おばあさん」を例えに、説明がありました。また、統計資料をもとに、在宅復帰の可能性が高くなる理由としては、施設の計画的な誘導、本人のADLの改善、さらにそれを維持したいという家族の強い意向がある場合であり、逆に本人や家族の意向によっては在宅復帰が困難になる。一方、老健施設には利用者のニーズや様々な家庭事情を上手にマネジメントして、利用者を次のステップにつなげていく重要な仕事がある。まさに地域包括ケアシステムを回していくエンジンの役割が老健施設が一番大切で、また一番難しい仕事である。大事なのは○どのような方が、○何のために利用し、(この点はしっかりと整理する必要がある)

そして○何をすることができたのか(これに関しては、この後行われる演題発表にあるように、皆さんが常に真剣に取り組んでいるところであり、自信を持ってよいところ) その結果、利用者が○どのようになって、○どこへ

行ったのか。このように老健には、次から次へと利用者を送り出す仕事がある訳だが、それが地域包括ケアシステムにおける老健施設の大事な役割である。

また、現場ケアのポイントとして、看護・

介護のプロとしては、必ず「すること」「しないこと」をはっきりさせ、業務を組み立てる必要があること。さらに、老健施設におけるすべての基本は、自立支援と利用者本位という考え方であること。一方、入所に際し、老健施設における事故等のリスクはどうしても避けられないこと、利用者はいつまでも今の状態のままというのはあり得ず、将来の現実を認める必要があることなどを、ご家族に対して繰り返し説明し、納得していただくことが大切である等、示唆に富んだ話がいくつもありました。最後に、老健施設が地域包括ケアシステムのハブ施設として、地域のリハビリセンター、リハビリケアのプロ集団と言われるよう、また治療も終末期も認知症への対応も任せてもらって大丈夫と言えるような、地域において「きらり」と輝く老健施設になって欲しいとの話で講演を締めくくられました。



講師

公益社団法人全国老人保健施設協会 理事
老人保健施設 創生園
理事長 高椋 清 様

優秀演題紹介

第17回山梨県介護老人保健施設大会が多くの参加者の中、昨年と同じく盛大に開催されました。他職種によるさまざまな専門的意見があり、又各施設相違工夫を凝らし、更なる質の向上サービスを目指した有意義な発表大会となりました。

27施設の演題発表の中で、次に紹介する4演題が、参加者の投票により優秀演題に選ばれました。



地域との合同防災訓練 ～地域との横割り連携を目指して～

みのりの里 介護老人保健施設 旭ヶ丘
事務主任 酒井雅子

当施設は、地域との横割り連携の第一歩として地域自治会との災害応援協定書を締結した。そして、合同防災訓練の具現化に向け、多職種での勉強会を重ね、地域が抱える課題の一つである土砂災害を想定しての訓練実現に至った。救急救命の仕方、誤嚥による気道閉塞の対処方法、応急処置の仕方、非常食の作り方等の勉強会を行い、合同訓練へと繋げていった。まだ課題は山積しているが、職員の自覚は高まってきている。

今後も地域と話し合いをしながら、さらに充実した訓練になるよう、取り組んでいきたいと考えている。



これなら俺でも食べられる

フルリアルむかわ
管理栄養士 小澤 與志美

「食べることが生きる力」を運営方針に、最後まで口から美味しく食べられるよう口腔ケアに取り組みと同時に従来のキザミ食を廃止し、平成16年11月よりソフト食を導入しました。

12年間の歩みの中、特にソフト食の段階や使える食材を増やしメニューを充実させ、職員間で硬さを統一することで連携を密に取りました。検査者も毎食ソフト食を摂り内容を確認しています。

S様については、スプーンで極キザミ食を目指すよう依頼があり入所されましたが、10ヶ月後には自力でおにぎりを持って食べるまでになり、笑顔が見られるようになりました。これからも職員一同、一人一人のご利用者様の、生きる意欲の向上のため努力していききたいと思います。



プロポリスを用いた足浴を試みて

介護老人保健施設 甲府相川川ケアセンター
作業療法士 鶴田裕和

プロポリスは抗菌殺菌作用が強力で副作用も少ない『天然の抗菌物質』である。今回の研究では、足浴や入浴後に爪へのプロポリスの塗布を実施する事で、夏場の悪化した足部環境に対し、衛生的な環境を保持し皮膚状態やむくみの改善を目標に施設全体で取り組んだ。時間経過と共に、足部の状態が改善されていく感じが感じられ、普段は目につきにくい足や爪への関心が飛躍的に高まった。また足浴を通し利用者様との貴重な交流の場となり、利用者様の多くの笑顔を見る事ができた。今後も早期発見・早期治療に心掛けフットケアに努めていきたい。



本気（マジ）Ca（カル） ジュースで毎日生き活き

サルコペニアに対する栄養補助飲料使用効果の検証

峡北シルバーケアホーム
管理栄養士 潮上幸恵

近年話題になっている「高齢者のサルコペニア（筋肉減少）」に対するリハビリと栄養の関係を検証する取り組みを、事例と結果を交えて紹介しました。毎日提供している給食から摂取する栄養素を充実させることは当然ですが、高齢者特有の体質の変化があり、吸収率や利用効率は低下します。

今回、リハビリの効果が向上するとされる栄養補助食品を飲用し、運動機能及び認知機能の変化をデータ化したところ、明らかに歩行速度や社会的認知機能の向上が見られました。

転倒リスクの軽減だけではなく、普段の活動内容や表情が改善し、ご本人やご家族が大変満足されたことが大きな喜びでした。

介護老人保健施設 大津ケアセンター



大津ケアセンターでは各階ごとに、毎月お誕生会やお茶会が開かれます。その時に登場するスイーツ（ケーキ）は当施設ご自慢の手作りケーキです。お誕生の日になると、厨房から甘い香りが漂ってきて 今日は何かなと楽しくなってきます。ちょっと贅沢な生クリームをベースに季節ごとのフルーツやチョコソース・ハーブなどで飾られたケーキ・・・どうぞ、ごゆっくり召し上がってください。



冬場の乾燥による皮膚炎と皮膚のケア

峡西老人保健センター 施設長 内藤 全之輔

人間の身体の中で、最も早く老化の特徴が現れるのは皮膚であると言われています。またそれに伴っていろいろな皮膚疾患が現れてきます。

年齢と共に皮膚が薄くなり、皮膚のバリア機能が低下してきます。表皮の一番外側にある角層の機能は身体の中の水分が蒸発するのを防ぐこと、そして外部からの病原微生物やアレルゲンの侵入を防ぐことです。

皮膚（角層）は弱酸性の皮脂膜で被われています（酸外套）。皮脂は皮脂腺で造られ、毛孔から分泌されますが、年齢と共に皮脂腺の数も分泌量も減少するため、皮膚の乾燥を引き起こします。

特に冬は空気も乾燥している為、高齢になるとより乾燥が激しくなり全身の皮膚がカサカサとした状態になります（乾皮症）。また掻破により湿疹病変が形成され、皮脂欠乏性皮膚炎になってきます。

皮脂欠乏性皮膚炎の好発部位は両側下腿、腰背部です。痒みは入浴時、就寝時など血行が良くなった時に激しくなり、掻きむしってしまい、より症状をひどくさせてしまいます。

その為、冬の季節には皮脂欠乏性皮膚炎にならない様、またなってしまった時にはひどくさせない様に皮膚のケアが必要となります。

まず、風呂はあまり熱くない温度、40℃位迄が良いと言われています。入浴剤はイオウが入っている物は使用しないで下さい。入浴時スベスベした感じがしますが、イオウには皮脂を取ってしまう作用があります。

石鹸の使用は冬場は週に1、2回にします。保湿性の高い石鹸を使用して下さい。両手で良く泡立てて、掌でなぞる様な感じで洗って下さい。ナイロンタオルは皮膚を傷つけてしまい、長い間使用していると骨の直上部皮膚に色素沈着を起こすので使用しないで下さい。

頭髮をシャンプーした後は、必ず顔面特に額部と、耳介後部を良く濯いで下さい。

風呂から上がった時もゴシゴシ拭く事なくそっと当てる様にして拭いて下さい。

そして、未だ皮膚がシっとりしている間にワセリンなどの油分の多い軟膏やヘパリン類似物質外用薬、尿素軟膏などの保湿剤を外用します。症状が激しい時は保湿剤とステロイド軟膏を重ねて塗ります。ビラン、浸出液、痂皮等の局面形成をした貨幣状湿疹が皮脂欠乏性皮膚炎の上にてできる事があります。その様な病変にはステロイド軟膏を塗った上に、亜鉛華軟膏をリント布に伸ばして貼布するか重ね塗ります。翌日、オリーブ油（サラダ油でも構いません）で軟膏を拭き取り、軽快するまで同じ手順で外用を繰り返します。

ここで一言

ステロイド軟膏は他の薬剤と混合し希釈して副作用の軽減を図ったつもりが、かえって経皮吸収が促進して透過量が増える場合があります。注意が必要です。

食事で注意して頂きたいのは、香辛料の摂り過ぎです。また、正月にはお餅を食べられる機会が増えますが、餅も沢山食べると痒みがでます。アルコールも程々にした方が良いでしょう。

就寝する際、冬場には電気毛布を使用される事がありますが、先にも述べましたように、身体が温まると痒みがでますので温度を高く設定しない様に注意して下さい。

以上、冬場に悩まされる皮脂欠乏性皮膚炎と皮膚のケアについて述べてみましたが、纏まりのない文章でイササカ冗長に過ぎてしまいました。少しでも参考になれば幸いです。



山梨県介護老人保健施設一覧

☎ : 電話 📠 : FAX ✉ : E-mail

1 峡北シルバーケアホーム 〒408-0023 北杜市長坂町渋沢907 ☎0551-32-6211 📠0551-32-6215 ✉kyohoku@crux.ocn.ne.jp	11 ケアセンターいちかわ 〒409-3601西八代郡市川三郷町市川大門416 ☎055-272-5121 📠055-272-5131 ✉kaigo-m@town.ichikawamisato.lg.jp	21 ふじ苑 〒406-0004 笛吹市春日居町小松855-6 ☎0553-26-5001 📠0553-26-3574 ✉fujien@hyper.ocn.ne.jp
2 しおかわ福寿の里 〒408-0114 北杜市須玉町藤田787 ☎0551-42-4604 📠0551-42-4101 ✉salt2910@poppy.ocn.ne.jp	12 ナーシングプラザ三珠 〒409-3612西八代郡市川三郷町上野2968 ☎055-272-8611 📠055-272-8653 ✉momo6154@herb.ocn.ne.jp	22 いちのみやケアセンター 〒405-0076 笛吹市一宮町竹原田1255-1 ☎0553-47-4811 📠0553-47-4815 ✉icare777@oregano.ocn.ne.jp
3 フルリールむかわ 〒408-0307 北杜市武川町柳澤740の1 ☎0551-26-0111 📠0551-26-0112 ✉info@fluriru.com	13 サンビューふじかわ 〒400-0601南巨摩郡富士川町鯉沢340-1 ☎0556-22-7301 📠0556-22-1665 ✉syomu3@kajikazawa.com	23 勝沼ナーシングセンター 〒409-1302 甲州市勝沼町菱山中平4300 ☎0553-44-5311 📠0553-44-5221 ✉knc@katsunuma.ne.jp
4 あさひホーム 〒407-0045 韮崎市旭町上条中割473 ☎0551-23-3500 📠0551-23-3505 ✉asahikai@poem.ocn.ne.jp	14 峡南ケアホームいとみ 〒409-3423 南巨摩郡身延町飯富1655 ☎0556-42-4314 📠0556-42-4331 ✉iitomi.ro-ken@gaea.ocn.ne.jp	24 恵信ケアセンター 〒404-0042 甲州市塩山上於曾1195 ☎0553-33-3205 📠0553-33-3207 ✉keishine@d9.dion.ne.jp
5 山梨ライフケア・ホーム 〒400-0111 甲斐市竜王新町2128 ☎055-279-4711 📠055-279-4713 ✉lifecare@bd.wakwak.com	15 甲府かわせみ苑 〒400-0802 甲府市横根町554 ☎055-222-2900 📠055-222-6600 ✉seishou@crux.ocn.ne.jp	25 はまなす 〒401-0301南都留郡富士河口湖町船津6901 ☎0555-83-3285 📠0555-83-3286 ✉hamanasu@toranomom.or.jp
6 峡西老人保健センター 〒400-0405 南アルプス市下宮地421 ☎055-282-7000 📠055-282-7003 ✉careport@feel.ocn.ne.jp	16 甲府南ライフケアセンター 〒400-0851 甲府市住吉5-24-14 ☎055-241-3333 📠055-241-7564 ✉kofuminamilife@mx4.nns.ne.jp	26 白樺荘 〒403-0006 富士吉田市新屋1552-3 ☎0555-24-4211 📠0555-24-4212 ✉sirakaba@fgo.jp
7 ケアホーム花菱 〒400-0402 南アルプス市田島1105 ☎055-280-8700 📠055-280-8701 ✉hanabishi@isis.ocn.ne.jp	17 N A C 湯村 〒400-0073 甲府市湯村3-15-13 ☎055-253-2200 📠055-253-2203 ✉rouken@nac-yumura.com	27 山中湖あんずの森 〒401-0501南都留郡山中湖村山中1069-3 ☎0555-63-2333 📠0555-62-9999 ✉yamanakakoanzunomori@juno.ocn.ne.jp
8 ひばり苑 〒409-3852 中巨摩郡昭和町飯喰1277 ☎055-275-9511 📠055-275-9512 ✉hibari-office@takekawa-kai.or.jp	18 甲府相川ケアセンター 〒400-0003 甲府市塚原町359 ☎055-252-1600 📠055-252-1602 ✉aikawa@kashinokai.or.jp	28 つる 〒402-0056 都留市つる5-1-55 ☎0554-45-1813 📠0554-45-1006 ✉rouken@hp.city.tsuru.yamanashi.jp
9 ノイエス 〒409-3863中巨摩郡昭和町河東中島443 ☎055-275-1165 📠055-275-1161 ✉neues@sage.ocn.ne.jp	19 大津ケアセンター 〒400-0055 甲府市大津町1509-1 ☎055-244-0202 📠055-244-0033 ✉ootsu@ray.ocn.ne.jp	29 ももくら 〒409-0622 大月市七保町下和田2132-1 ☎0554-20-1111 📠0554-20-1119 ✉momokura@biscuit.ocn.ne.jp
10 玉穂ケアセンター 〒409-3812 中央市乙黒247-1 ☎055-273-7331 📠055-273-7360 ✉syojukai@yin.or.jp	20 甲州ケア・ホーム 〒406-0032 笛吹市石和町四日市場2031 ☎055-263-0242 📠055-263-2250 ✉carehome@krg.ne.jp	30 みのりの里 旭ヶ丘 〒409-0112 上野原市上野原7806 ☎0554-63-5800 📠0554-62-6006 ✉jimuj@keifuu.or.jp

山梨県老人保健施設協議会広報誌

編集・発行 山梨県老人保健施設協議会広報委員会
 介護老人保健施設あさひホーム 内

〒407-0045 山梨県韮崎市旭町上条中割473
 TEL 0551-23-3500(代) FAX 0551-23-3505
 URL:http://asahihome.biz/